



# 東北のかなめ

vol.71 (2026.1)

東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、  
地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、  
関連する情報について、年4回、発信します。



三沢基地航空祭(令和7年9月21日)

## 【CONTENTS】

特集1 第47回防衛セミナー in 八戸

特集2 日米交流 かかし作り交流プロジェクト in つがる 2025

### 東北防衛局の活動

令和7年版防衛白書の説明

航空祭、駐屯地記念行事で政策広報

重症患者搬送訓練を実施

令和7年度在日米軍従業員永年勤続者表彰

令和7年度防衛大臣感謝状の贈呈

東通村多目的集会施設「そでやま館」落成式

令和7年度東北防衛施設地方審議会

### 地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿

宮城県大和町 ～大和町と大和駐屯地・王城寺原演習場

陸上自衛隊大和駐屯地 ～大和駐屯地と地域との関わり

独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構三沢支部

～在日米軍従業員の募集活動

藤倉航装株式会社 ～人命を預かる絶対品質

友住設備工業株式会社

～装備下北(4)整備場新設等機械工事

10月9日、八戸市公民館において、元統合幕僚長の山崎幸二氏を講師にお招きし、「第47回防衛セミナー」を開催しました。東北防衛局は、防衛政策や自衛隊の活動等について、より多くの方々の理解と協力を得るため、各地で防衛セミナーを開催しており、この日の防衛セミナーには、地元自治体の関係者や地域住民の方々など、約250名が来場しました。



セミナーの開演に当たり、主催者である池松英浩東北防衛局長は、「東北防衛局は、防衛セミナーを重視しており、活性化のため、参加者の拡充に取り組んでいる。幅広い層の方に来場いただくため、地元の大学などにも案内した。本日のセミナーが、地域と防衛との関係や共生について考える機会にもなれば」と挨拶しました。



主催者挨拶を行う池松局長



元統合幕僚長の山崎幸二氏



海上自衛隊第2航空群司令の  
赤岩英明海将補

防衛セミナーの第1部では、わが国の安全保障政策について認識を深めてもらう観点から、「日本の安全保障の現状と今後の課題」をテーマに、陸上自衛隊第9師団長を務め、また、自衛隊の制服組のトップである統合幕僚長を平成31年4月から令和5年3月まで務めた山崎幸二氏が、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の中における、わが国全体の防衛体制の強化の必要性などについて、解説しました。

続く第2部では、地域と防衛との共生について認識を深めてもらう観点から、「八戸航空基地と地域との関わり」をテーマに、海上自衛隊第2航空群司令の赤岩英明海将補が、八戸航空基地の概要や防災訓練での自治体との連携など、地域とのつながりについて、講演しました。

来場者からは、「日本を取り巻く現状を整理できた。」、「自分の国は、自分で守っていく意識を高めることが重要だと感じた。」などの感想が寄せられました。

防衛セミナーについては、防衛省・自衛隊公式動画チャンネルで公開しています。是非、ご視聴ください。



東北局HP/防衛セミナー

7月16日、青森県つがる市立車力小学校の児童と米陸軍車力通信所の軍人等が、かかし作りを通じて交流する「日米交流かかし作り交流プロジェクト in つがる 2025」を開催しました。

東北防衛局は、在日米軍と地域住民の方々の相互理解を深めるため、スポーツ、文化などを通じ交流する「日米交流事業」を各地で開催しています。つがる市では、「かかし作り交流プロジェクト」を平成29年度から開催しており、今回で8回目を迎えました。

日米の参加者33名（児童25名、軍人等8名）は、混合5チームに分かれ、児童が事前に準備した「かかし」のイラストを基に、かかし作りを開始しました。日本語と英語を交えながら、協力し合っ、木の骨組みにワラと縄を巻き付け、かかしの体を作成。イラストのイメージに近づけるべく、かかしの体に浴衣や小物などで装飾し、2時間ほどで個性豊かな「かかし」を完成させました。

参加した児童や米軍人等は、「米軍の人と話せて、友達みたいになれた。また会いたい。」、「子どもたちが創造力のあるアイデアをたくさん出してくれ、楽しく作ることができた。」などと感想を話していました。



かかしの体を作成



服と小物でデコレーション



完成したかかし

完成した5体のかかしは、約2か月間、つがる市北消防署、つがる市役所、車力小学校の市内3か所で展示と人気投票が行われ、9月18日、表彰式を開催しました。

表彰式では、人気投票の結果によって選ばれた金賞、銀賞、銅賞、特別賞（車力通信所指揮官賞、車力小学校長賞）が発表され、参加者全員に賞状と記念品が授与されました。

車力小学校の佐々木校長は、「かかしの作成では、子どもたちが米軍の参加者と協力して楽しそうに作業していた。かかし作りは日米交流の良い機会となっている。」と話していました。



表彰式の後、みんなで集合写真

## 令和7年版防衛白書の説明

東北防衛局は、青森県宮下知事、岩手県達増知事、宮城県伊藤副知事、秋田県鈴木知事、山形県吉村知事、福島県細川危機管理部長に令和7年版防衛白書を配布し、防衛力の抜本的強化の進捗状況などを中心に説明を行いました。

東北防衛局は、防衛政策全般について地方公共団体のご理解を得るため、また、地方公共団体との連携強化を図るため、自衛隊地方協力本部と協力して、東北地方の県市町村等262団体(11月末現在)に、防衛白書の配布等を行いました。

また、日本外交協会宮城県支部、東北コミュニティ放送協議会から依頼を受け、講師を派遣し、「令和7年版防衛白書について」のテーマで講演を行いました。

あわせて、地域と防衛との関わりについて、東北防衛局が作成した資料に基づき説明しました。



達増岩手県知事への説明  
(10月17日)



鈴木秋田県知事への説明  
(10月3日)



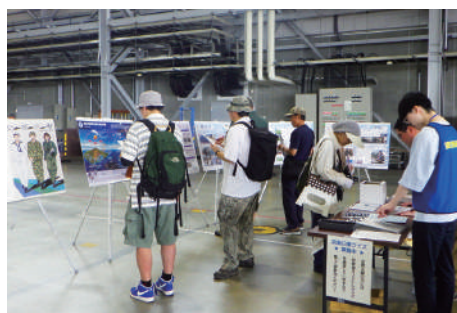
吉村山形県知事への説明  
(10月31日)



日本外交協会宮城県支部での講演  
(10月28日)

## 航空祭、駐屯地記念行事で政策広報

東北防衛局は、防衛省の政策や自衛隊の活動について、地域の方々のご理解をいただくため、駐屯地の記念行事や航空祭で広報ブースを開設しています。広報ブースでは、防衛白書のパネル展示や、東北防衛局が作成したパネルの中から答えを探す「防衛白書クイズ」を行いました。クイズには多くの方に挑戦していただき、戦車や戦闘機などのオリジナル缶バッジを進呈しました。



松島基地航空祭(8月31日)



三沢基地航空祭(9月21日)



大和駐屯地創立記念行事(10月19日)

## 重症患者搬送訓練を実施

8月19日、米陸軍車力通信所(青森県つがる市)内で事故が発生した際に、負傷者を医療機関に搬送する重症患者搬送訓練を行いました。

この訓練は東北防衛局の調整で実現したもので、車力通信所から「日本のドクターヘリと空自車力分屯基地のヘリパッドを使った患者搬送訓練はできないか」と相談を受けた東北防衛局が、米陸軍車力通信所のほか、航空自衛隊車力分屯基地、青森県、青森県立中央病院、つがる警察署、つがる市、つがる市消防本部、中日本航空株式会社と調整し、令和6年11月に図上訓練、令和7年3月に実動訓練が行われ、今回、2回目の実動訓練が実施されました。

訓練は、車力通信所内で燃料への引火による爆発事故が発生し、事故による重症患者を救急車で隣接する航空自衛隊車力分屯基地のヘリパッドまで搬送した後、ドクターヘリで青森市内の県立中央病院まで搬送するシナリオで実施されました。

当日は、天候不良のためドクターヘリは出動しなかったものの、訓練参加者は爆発事故による負傷者をドクターヘリで搬送する際の手順を確認するとともに、つがる市消防本部は車力通信所内での消火手順の確認も行いました。



負傷者の容態を確認する救急隊員



爆発による火災の消火活動をする消防隊員(写真:米空軍三沢基地)



車力分屯基地のヘリパッドでの集合写真(写真:米空軍三沢基地)

## 令和7年度在日米軍従業員永年勤続者表彰

10月23日、三沢基地において、令和7年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式を開催しました。

防衛省は、在日米軍との共催により、長年にわたり在日米軍施設に勤務した在日米軍従業員の功績をたたえるために永年勤続者の表彰を行っています。今年度は、勤続10年、20年、30年及び40年を迎えた東北防衛局管内に所在する在日米軍施設に勤務する計129名を表彰しました。



三沢基地内での式典の様子

## 令和7年度防衛大臣感謝状の贈呈

10月11日、令和7年度防衛大臣感謝状贈呈式が、ホテルグランドヒル市ヶ谷（東京都新宿区）において開催され、早坂利悦宮城県色麻町長、添田勝幸福島県天栄村長、玉井恒東北コミュニティ放送協議会会長に、中谷防衛大臣（当時）から感謝状が贈呈されました。

また、11月12日、一力敦彦東北防衛施設地方審議会前会長（東北放送株式会社代表取締役社長）に、池松東北防衛局長から防衛大臣感謝状を伝達しました。

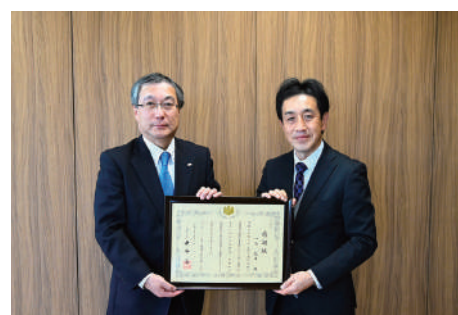
早坂色麻町長と添田天栄村長はそれぞれ王城寺原演習場、白河布引山演習場の安定的かつ円滑な運用のために、玉井東北コミュニティ放送協議会会長は防衛省・自衛隊、米軍の活動などに対する理解の醸成に、一力東北防衛施設地方審議会前会長は同審議会の発展に、ご尽力されました。



池松局長（左）と早坂色麻町長（右）



（左から）玉井会長、中谷防衛大臣（当時）、添田天栄村長、池松局長（右）



一力前会長（左）と池松局長（右）  
（11月12日）

## 東通村多目的集会施設「そでやま館」落成式

11月10日、青森県東通村において、多目的集会施設「そでやま館」の落成式が行われました。本施設は、地域活動の場として活用されるほか、災害時などの避難場所としての機能を併せ持ちます。東通村は、防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく民生安定事業として、事業費約3.2億円のうち、補助金約3200万円を活用し、本施設を整備しました。

畑中稔朗東通村長は、式典で、「施設が、様々な地域活動の拠点として、心と心を繋ぐ交流の場となることを望んでいます。また、神楽などの伝統芸能の発表の場など、これまでの不便は解消できたものと考えています。施設が大いに活用され、地域がますます発展されることを心より祈念します。」と挨拶しました。



完成した「そでやま館」の全景



式典で挨拶をする畑中村長



式典に先立ち行われた  
地元の神楽会による「屋固め」

## 令和7年度東北防衛施設地方審議会

11月5日、航空自衛隊三沢基地において、令和7年度東北防衛施設地方審議会が開催されました。東北防衛施設地方審議会は、東北防衛局長の諮問に応じて、防衛施設に係る不動産の権利の対価の額などに関する事項を調査審議し、必要と認める事項を建議するため、東北防衛局に置かれています。審議会の委員には、石川啓太郎会長(株式会社青森みちのく銀行取締役頭取)をはじめ、様々な分野において、専門的な知識や経験を有する9名を任命しており、当日は7名の委員が出席しました。



審議会での石川会長の挨拶

今年度は、防衛政策の現状や課題と取り組みなどについて理解を深めることを目的に、令和7年版防衛白書の内容を解説したほか、当局が取り組んでいる具体的事例として、三沢飛行場における第1種区域(住宅防音工事の助成対象区域)等の見直しについて説明を行い、委員から多くの意見や質問が出され、盛会のうちに終了しました。



佐藤企画部長による防衛白書の説明

また、航空自衛隊三沢基地と米軍三沢基地の協力のもと、各部隊の概要説明や装備品見学が行われました。



三沢米空軍での部隊視察



三沢米海軍での部隊視察

### ～在日米軍基地で働きませんか～

エルモでは、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください。

求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますのでご利用下さい。

【X(旧Twitter)】

求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。  
ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名

「独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構(エルモ)@LMO\_recruit」



求人情報提供  
メールサービス



求人情報  
本州・九州の基地



【窓口応募受付・お問い合わせ先】エルモ三沢支部 管理課管理係  
電話:0176-53-4165 住所:青森県三沢市平畑1-1-25  
(担当施設:三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所)

LMO

検索

<https://www.lmo.go.jp>

## 宮城県大和町 ～大和町と大和駐屯地・王城寺原演習場

大和町は宮城県のほぼ中央に位置し、町のシンボル七ツ森や船形山そして吉田川に代表される恵まれた自然と古(いにしえ)からの歴史と文化の豊かな町です。

町内には、自動車関連産業や物流企業などが立地する「仙台北部中核工業団地」、半導体関連の高度先端技術産業の集積地である「大和リサーチパーク」があり、宮城県におけるものづくり産業の拠点として「富県宮城」の一翼を担っています。

防衛関連施設としては、陸上自衛隊大和駐屯地及び全国5番目の広さを有する王城寺原演習場が所在しており、多くの部隊が訪れ日夜厳しい訓練に励んでいます。また、沖縄在日米軍による実弾射撃訓練の分散実施も行われています。



町の西部には七ツ森(7つの山の総称)が位置する。町の中心部にあった吉岡宿は映画の題材にもなった。



春の水田に映る七ツ森。  
四季折々に美しく姿を変える。



オーナーは自衛官募集相談員。  
自衛隊モチーフのお菓子も販売中。  
(写真：自衛隊宮城地方協力本部)

創立69周年を迎えた大和駐屯地では、毎年記念行事が行われており、一般開放される駐屯地では普段見られない装備品や訓練展示に多くの町民が訪れ、「自衛隊まつり」や「駐屯地まつり」の愛称で親しまれています。



多くの町民で賑わう  
大和駐屯地創立記念行事

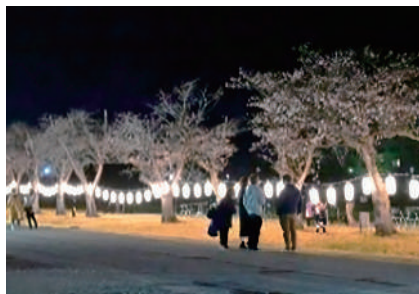
また、町内で洋菓子店を営むオーナーが自衛官募集相談員を務めており、自衛官の仕事や魅力を地域で広める活動や、自衛隊をモチーフにしたオリジナルのお菓子も販売するなど、おいしいスイーツと自衛官募集相談員がいるお店として地域から愛されています。

## 陸上自衛隊大和駐屯地 ～大和駐屯地と地域との関わり

大和駐屯地は、昭和31年、大和町の熱烈な誘致により開設され、69年目となります。皆さまのご協力・ご理解により、多くの地域との関わりがあります。



69年前の開設記念日(左)と同アングルの現在の駐屯地(右)



夜桜も楽しめる観桜一般開放



大和駐屯地司令杯  
パークゴルフ大会



大和駐屯地定期演奏会  
まほろばコンサート

### ◇大和駐屯地と地域との交流◇

観桜一般開放から始まり、近傍市町村のイベントを支援するとともに、3つのイベントを実施しています。

宮城県大衡村で実施される大和駐屯地司令杯パークゴルフ大会は、第2施設団(船岡駐屯地)のゴルフ場の部外工事支援をきっかけに開催され、今年で18回目になり、心地よい汗をかくいい機会となっています。

続いて、大和駐屯地定期演奏会まほろばコンサートです。平成6年にホールの完成を記念し、大和町長の依頼で演奏会が始まり、今年で30回目となりました。第6音楽隊及び近傍中学校の演奏を聴くことができ、約900名が参加する人気イベントとなっています。

最後は、駐屯地創立記念行事です。射撃を伴う訓練展示、オートバイドリル、装甲車体験搭乗等を実施し、大変好評をいただいています。



令和元年台風19号  
(宮城県大郷町)

### ◇地域との関り 災害派遣等◇

駐屯地では、先遣部隊が30分以内に前進できるよう準備しており、東日本大震災の際は、発災から約7分で情報収集に出動しています。このほか、平成27年台風18号により孤立した33名の被災者を救助、令和元年には台風19号による被害のため、近傍地域を含む宮城～福島の広域にわたり派遣し、被害状況の確認及び復旧活動を行いました。

また、冬季には山岳救難隊を編成しており、山地機動訓練及び山岳救難訓練を実施して遭難者の救助に備えています。



山地機動訓練  
(蘭山(あららぎやま 仙台市))

## 独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構三沢支部 ～在日米軍従業員の募集活動

独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構(通称:エルモ(LMO))三沢支部は、青森県内の米軍施設で勤務する約1,400名の在日米軍従業員の労務管理や募集を行っています。

在日米軍従業員は、米軍の任務を支える多様な業務に従事しており、その役割を欠かすことはできません。当支部では、その新たな担い手を確保するため、三沢市や米軍三沢基地の関係部署と連携し、積極的な募集広報活動を展開しています。

令和7年9月2日から4日までの3日間、米空軍三沢基地人事課は、将来の人材確保のためインターンシップを開催し、三沢商業高等学校の生徒10名が参加しました。

参加した生徒は、ホテルでは、予約システムの操作や来客者の対応などのフロント業務。スポーツジムでは、実際にプログラムに参加するほか、機器のメンテナンスなどの業務。報道部では、最先任上級曹長に任務内容や趣味などを英語で模擬インタビューするなど、基地内の様々な業務を体験しました。

エルモ三沢支部も、在日米軍従業員は職務内容と求められるスキルに基づき人材を雇用する「ジョブ型雇用」が特徴であること、給与は職種ごとに定められた基本給表に基づき支給されることなど、その特色や待遇などを説明し、働く魅力を伝えました。

インターンシップに参加した生徒は、「慣れない英語環境で緊張していたが、配属先の方々が親切に指導してくださり、打ち解けることができた。英語をもっと勉強し、将来、皆さんと一緒に働きたいと思った。」「基地が様々な部署の仕事に支えられていることを学んだ。基地で働くことを選択肢に入れてもよいかと思った。」など、感想を話していました。

エルモ三沢支部は、今後も関係機関と連携し、魅力ある職業として、在日米軍従業員の認知拡大と人材確保に努めてまいります。



ホテルでは予約システムの操作を体験



報道部では最先任上級曹長に英語でインタビュー



エルモから在日米軍従業員について説明を受ける生徒たち



米空軍三沢基地人事課での修了式

## 藤倉航装株式会社 ～人命を預かる絶対品質

藤倉航装株式会社は、昭和14年(1939年)の創業以来、日本における「オンリーワン技術」であるパラシュートをはじめ、各種救命装備品を作り続けてきました。

福島県田村市には、船引工場、技術センター、大越工場の3事業所が所在し、それぞれ、当社の品質保証・製造部門、製品開発・試験部門、射出座席の維持・整備部門を担っています。

当社は、創業以来、基幹事業としてパラシュートの開発・製造に力を注いできました。陸上自衛隊の「13式空挺傘」は、当社が開発し、製造している代表的な製品です。

パラシュートは、安定した降下ができるよう、傘の部分に、空気の通り道となる穴が開いています。一方、穴が開いている部分は、パラシュート同士が空中接触したときなどに変形しやすく、傘の内側の空気が抜け、傘がしぼむ原因ともなり得ます。

13式空挺傘は、傘の素材に、空気を通じづらい生地だけでなく、空気を通しやすい生地も用いることにより、穴の数を減らしつつも、安定性と接触などに対する強度を確保し、安全性を高めることに成功しました。

また、当社は、航空自衛隊のF-15、F-2、T-4といった各種航空機が装備している射出座席の維持・整備事業に、新たに参入し、令和7年4月、射出座席の維持・整備を専門に行う大越工場を新設、稼働を開始しました。

射出座席は、航空機の飛行が継続できなくなった場合に、パイロットを安全に機外に脱出させ、命を守る最後の砦となる装備品です。その構成品の整備について、国内外のメーカーと提携し、維持・整備できる態勢を整えました。

救命装備品は、人命を預かる製品の性質上、万にひとつの失敗も許されません。当社は、「絶対」であることを自らの使命とし、今後も取り組んでまいります。



13式空挺傘(ひとさんしきくうていさん)。頂部のほか、4か所に穴が開いている。(写真:陸上自衛隊HP)



空気の透過性が異なるナイロン製の生地を縫い合わせた13式空挺傘の傘。色の薄い生地が、空気を通しやすい生地。



13式空挺傘の構成品。傘は、内う(左前)に収納され 航空機に固定された自動索(右前)で引き出される。



ミシンでパーツを縫い合わせ、13式空挺傘を製造している様子。生地面積は大きく、技術を要する。

## 友住設備工業株式会社 ～装備下北(4)整備場新設等機械工事

友住設備工業株式会社は、平成4年(1992年)、青森県十和田市において創業以来、地域に密着し社会に貢献することを基本方針に、日々想像力を高め安全を第一として人材育成に取り組んでまいりました。

このたび、東北防衛局発注の「装備下北(4)整備場新設等機械工事」にて、機材の整備場新設、耐震改修に係る車庫改修、事務室改修を施工し、令和7年度優秀工事顕彰を受けました。

当該工事では、整備場の大型天井クレーンの設置、車庫の消火活動用の歩廊架台の設置工事などの各工事の計画を立案し、部隊を含めた関係者との連絡調整を密に行い、工程、品質、安全の管理に努めました。

特に、施工図では分かりづらい箇所について、模型を作成して精度の高い施工に努め、工事関係の手続きに主体的に関与するなど、最後まで責任感を持って対応したことが、東北防衛局において評価いただけたものと考えています。

また、天井クレーンの設置工事では、高所作業が続くことから、当作業所からは労働災害を絶対に起こさないことを全員に周知するため、作業手順書の作成、安全朝礼での作業周知の徹底、現地での危険予知活動を行い、無事故、無災害で工事を終えることができました。

今後も当社は、東北防衛局発注の工事に積極的に参加し、各工事に応じた技術提案などを行いながら、同局並びに各駐屯地及び基地の皆さま方に安心して任務を遂行できるような、より良い施設づくりに努めてまいります。



友住設備工業株式会社



整備場の外観



整備場の内部に設置された天井クレーン

## 編集後記

昨年1月の「東北のかなめ」のリニューアルから、1年が経ちました。

地域と防衛との共生を目指し、毎号、構成を考えていますが、編集に当たっては、東北防衛局の各部課所の業務について、幅広く取り上げることを心掛けています。これからも、東北防衛局のことを知ってもらい、地域と防衛との共生へと繋がるよう、情報を発信していきます。

